

研究旅行の学びを電子書籍化する

iBooks Author を使って生徒自身がつくるデジタル旅行記

和光学園 和光高等学校 小池 則行

情報機器の驚異的な進歩と低価格化の進行は、高校生に表現者や制作者となる機会をもたらしている。かつては出版社でなければできなかったような「出版物」も、高校生が日常的に利用しているコンピュータやスマートデバイスを利用して制作ができる時代となっている。本稿では昨年度2年生選択情報の授業で取り組んだ「研究旅行の電子書籍化」について報告する。

1. 本校の情報科系カリキュラム

本校における情報科系講座は、以下のように開設されている。

1年次：必修「情報」（2単位）

2年次：B2選択「情報社会とコンピュータ」
（今年度より「デジタルデザイン」に名称変更）

3年次：C2選択「プログラミング演習」
C4選択「ウェブコミュニケーション」

選択講座はそれぞれ2単位。定員20人で実施。

B2選択「情報社会とコンピュータ」では、1年必修「情報」の学習事項をベースにし、デジタルツールによる「表現」「プレゼンテーション」の分野にフォーカスした内容を取り上げている。^{*図1}

年間授業の前半は、Piktochart⁽¹⁾を利用したインフォグラフィックスの制作とズームングプレゼンテーションPrezi⁽²⁾を使ったコンテンツの制作とプレゼンテーションを実施した。文化祭あけの後半からはiBooks Author⁽³⁾を使った電子書籍の制作を実施した。

2. 高校生の身近になりつつある電子書籍

今年度4月に行なった1年生239名にとった情報機器利用実態調査では、スマートフォンは学年で86%、タブレットは30%の所有率となっている。スマートデバイスが生徒たちの日常生活の大きな一部を占めている。電子書籍の認知度は高く、実際に利用している生徒もおり、身近なコンテンツとなり始めている。

3. 電子書籍作成ツール iBooks Author

iBooks Authorは、Mac OS X上で動く電子書籍作成プラットフォームである。Mac App Storeから無料でダウンロードすることができる。

iBooks Authorでつくった電子書籍(.ibooks)は、iPadおよびMac(10.9以降)のiBooksで閲覧することができる。

iBooks Authorには、あらかじめさまざまなテンプレートが用意されており、テキスト編集から画像や映像の配置まで、ドラッグ・アンド・ドロップなどの容易な操作で電子書籍の制作ができる。KeynoteやPowerPointによるスライド制作の経験があれば、ある程度の時間で習得が可能である。また内蔵されているウィジェットを使えば、さらにリッチでインタラクティブなオブジェクトも挿入できる。

電子書籍には様々なフォーマットがあるが、iBooks Authorは、電子「教科書」を意識して開発されている。教育者個人や小規模企業でも、オリジナルの教材を自分自身で制作できるツールとなっており、単なる電子書籍とは一線を画している。インタラクティブな電子書籍アプリの先駆けとしてAl GoreのOur Choiceが有名であるが、それと非常に似たインターフェイスの書籍を制作することができる。

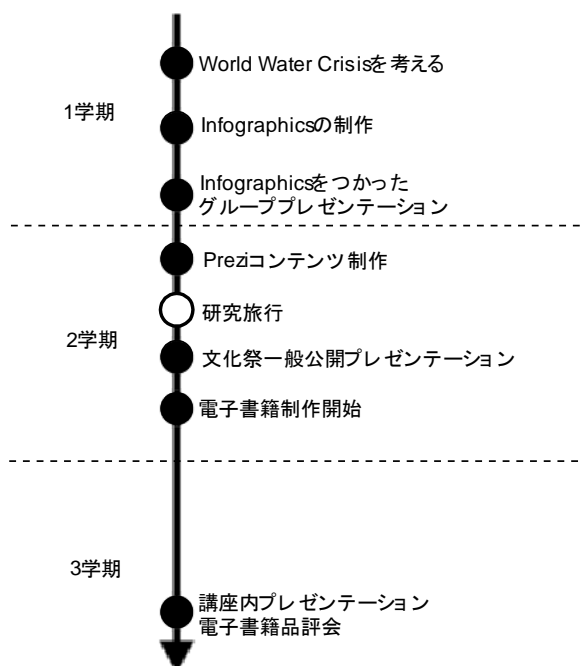


図1：「情報社会とコンピュータ」年間カリキュラム

4. 電子書籍のテーマは研究旅行

今回制作した電子書籍は、本講座の受講生が参加した研究旅行をテーマとし、学習の成果をまとめる内容として構成させた。

研究旅行とは、各教科から構成される A 必修選択枠 12 講座ごとに実施する、3泊4日の学習旅行のことである。各講座で取り上げる学習課題に基づき、北は北海道から南は沖縄まで全国に散らばる。*図2

講座内容としては、我々が生きる現代社会が抱える問題を取りあげたものが多い。年間カリキュラムの中にもフィールドワークが多くプロットされており、積極的に学外に飛び出し、高校生ならではの視点でインタビュー・調査をしながら学習を進めている。



図2：必修選択 A1 講座研究旅行先

5. 電子書籍のワークフロー

電子書籍制作は11月下旬からスタートし、3学期末まで合計10コマ(20時間)で実施した。*図3

ワークフローは、一般の印刷物の制作過程とほぼ同じ流れとなっている。異なるのは、さまざまな役割のスタッフが関わり分業で行うプロセスを、最初から最後まで一貫して個人で体験することができる点である。

6. 電子書籍の制作を終えて

生徒の制作過程および最終プレゼンテーションの様子は、当日のスライドで詳しく紹介したいと思う。

受講生からは、「A 選択担当の先生からも褒められた」「自分なりに研究旅行まとめる機会となった」「電子書籍を1から自分の手で作れるなんて思わなかった」と非常に高い評価を得ることができた。

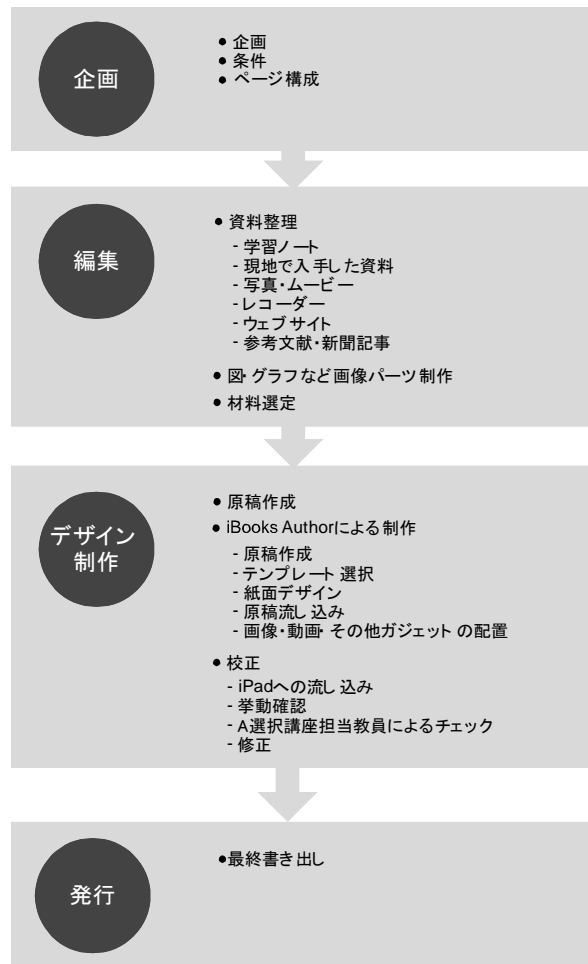


図3：電子書籍制作ワークフロー

参考サイト

- (1) Piktochart <http://piktochart.com/>
- (2) Prezi <http://prezi.com/>
- (3) Apple - iBooks Author <https://www.apple.com/jp/ibooks-author/>